

宮本憲一・英子先生を囲むお祝いの会

表題の会が、京都嵐山「花のいえ」であった。宮本憲一先生の『戦後日本公害史論』、奥さま英子先生の自叙伝『平和と平等を追い求めて』の出版を記念した、「内輪の会」ということで企画された。

その後に、宮本先生が日本学士院賞を受賞されることが決まり、「先生の先生」である水田洋先生も参加されることになった。

「花のいえ」には10年ほど前に「ゼミ旅行」で来たことがあり、じつに懐かしかった。お祝いの会は、最初に水田先生が学士院賞などについて話された。その後、宮本先生と英子先生に「受賞の弁」や「出版にまつわること」などを話していただいた。

会食に移ってから、参加者からのお祝いの言葉が続いた。英子先生の本格的な歌を初めて聴くこともでき、楽しく有意義なときを過ごせた。

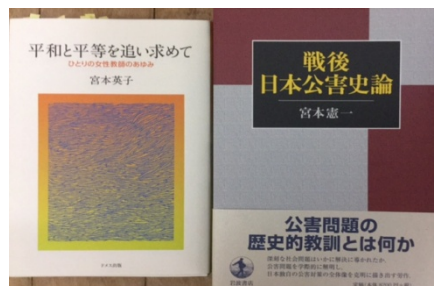
いろいろ書きたいこともあるが、ここでは、水田先生のことを記しておきたい。

水田先生は現在96歳である。当日の朝、私がご自宅まで伺い、京都までご一緒することになっていた。住宅地図でご自宅を調べるなどしたが、先生が前日から京都に泊まれることになり、残念ながら当初の予定は変更となった。

帰りの「道中」は、先生のご自宅までご一緒して、書庫を見せてもらうこともできた。さすが水田先生だけあり、ぎっしり詰まった蔵書が並ぶ立派な書庫であった。

じつは水田先生とは、10年前にも新幹線で名古屋までご一緒したことがある。このときも宮本先生が「京都新聞大賞」を受賞され、そのお祝いの会の帰りであった。当時、先生は私よりも足早に階段を上がられていたと記憶している。緊張気味にいろいろ話していたら、あっという間に名古屋に着いた。

今回は事前に「質問」なるものを準備していたので、タクシーと新幹線の中などで、多くの興味深いことをお聞きすることができた。先生の本などを参照しながら、また、じっくりレポートしてみたい。



(2016年4月19日)